

◆ 評価サンプル

- ・警戒値緊急異常値報告については、各施設で実際に運用している文書・記録を提出

※ 施設内で緊急異常値の報告基準を設定していない場合は、その旨を記載してください

1. 手順書もしくは方法の記載がされている

3.5. 患者急変時の対応

- 1) 直ちに検査を中止し、必要に応じ患者を安静にさせる。
- 2) 患者の意識レベル、呼吸状態、脈拍等を観察する。
- 3) 速やかに担当医師に連絡する。
- 4) スタッフの応援要請を行う。
- 5) 患者急変連絡 EM コール（****）をする。
- 6) 救急カート、必要に応じ除細動器を準備する。

資料より一部抜粋

2. 異常値の基準（申請領域全てについて）が記載されている

腹部領域参考：

17. 警戒値/緊急異常値(適切な場合)

警戒値、緊急異常値に該当した場合は速やかに担当医に連絡し、結果を電子カルテに反映させる。

詳細は「運用手順書 生理検査室」を参照する。

警戒値、緊急異常値以下のものとする。

- 1) 消化管穿孔
- 2) 腹腔内出血
- 3) 臓器破裂
- 4) 被膜下血腫
- 5) 腹腔内膿瘍
- 6) 腸閉塞
- 7) 腸重積
- 8) 腹腔内出血
- 9) 肝癌破裂

資料より一部抜粋

心臓領域参考：

17. 警戒値/緊急異常値(適切な場合)

以下の検査所見が得られた場合、症状確認し安静にして依頼医師に連絡し指示を仰ぐ。
詳細は、「生理検査室運用手順書」を参照する。

- 1) 心タンポナーデ
- 2) 心腔内血栓
- 3) 動脈解離
- 4) 重篤な人工弁不全
- 5) 心腔内腫瘤

資料より一部抜粋

頸部血管領域参考：

▪ **17. 警戒値/緊急異常値(適切な場合)**

警戒値、緊急異常値に該当した場合は速やかに担当医に連絡し、結果を電子カルテに反映させる。詳細は「運用手順書 生理検査室」を参照とする。警戒値、緊急異常値以下のものとする。

- 1) 頸動脈解離。
- 2) 頸動脈不安定プラーク。

資料より一部抜粋

下肢静脈領域参考：

17. 警戒値/緊急異常値(適切な場合)

急性期の血栓が血管内に認められた場合は速やかに担当医に連絡し指示を仰ぐ。詳細は

資料より一部抜粋

乳腺領域参考：

17. 警戒値/緊急異常値(適切な場合)

警戒値、緊急異常値に該当した場合は速やかに担当医に連絡し、結果を電子カルテに反映させる。

予期しない悪性腫瘍を認めた場合。

資料より一部抜粋

甲状腺領域参考：

17. 警戒値/緊急異常値(適切な場合)

警戒値、緊急異常値に該当した場合は速やかに担当医に連絡し、結果を電子カルテに反映させる。

警戒値、緊急異常値以下のものとする。

- 1) 甲状腺クリーゼを疑う場合。
- 2) 未分化癌を疑う場合
- 3) 気管など浸潤所見を認めた場合。

資料より一部抜粋